

「ドイツ語 I」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
1. 初級ドイツ文法を理解し、運用できる。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級合格程度のこと ができない。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級合格程度のこと ができる。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級に優秀な成績で合格する程度のこと ができる。	40		
2. 簡単なドイツ語の日常会話を聞き、話すことができる。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級合格程度のこと ができない。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級合格程度のこと ができる。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級に優秀な成績で合格する程度のこと ができる。	20		
3. 簡単なドイツ語の文章を読み、書くことができる。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級合格程度のこと ができない。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級合格程度のこと ができる。	□左記目標に関し、ドイツ語技能検定試験4級に優秀な成績で合格する程度のこと ができる。	20		
4. ドイツの歴史や日常生活等を学び、ドイツ(ヨーロッパ)文化を理解することができる。	□ドイツの歴史や日常生活等を学び、ドイツ(ヨーロッパ)文化を理解することが できない。	□ドイツの歴史や日常生活等を学び、ドイツ(ヨーロッパ)文化を理解することが できる。	□ドイツの歴史や日常生活等を学び、ドイツ(ヨーロッパ)文化を深く理解することが できる。	20		
備考						

「4年総合英語A」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 授業内での到達度テスト	氏名	
C: レポート・授業外自主学习		
D: 外部試験スコア		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)			
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C	D
				%	%	%	%
1. 基本的語彙、語法、文法を理解して英文を書くことができる。	<input type="checkbox"/> 基本的語彙、語法、文法を理解が不十分で、正しい英文を書くことができない。	<input type="checkbox"/> 基本的語彙、語法、文法を理解して、日本語が表す内容を概ね正しい英文で表現することができる。	<input type="checkbox"/> 基本的語彙、語法、文法を理解して、日本語が表す内容を正確に英文で表現することができる。	10			
2. 英文や対話を聴いて内容を聞き取ることができる。	<input type="checkbox"/> 英文や対話を聴いて内容を聞き取ることができない。	<input type="checkbox"/> 英文や対話を聴いて内容を概ね聞き取ることができる。	<input type="checkbox"/> 英文や対話を聴いて内容を正確に聞き取れる。		5	5	5
3. 英文を読んで内容を読み取ることができる。(D2-3)	<input type="checkbox"/> 英文を読んで内容を理解できない。 <input type="checkbox"/> 各四半期の多読(多聴)が5000語に満たない。	<input type="checkbox"/> 英文を英語の語順通りに読み進み、YL1.5以下の英文をwpm=100程度のスピードで内容を概ね読み取れる。 <input type="checkbox"/> 各四半期に5000語以上の多読(多聴)を行なう。	<input type="checkbox"/> 英文を英語の語順通りに読み進み、YL1.5以下の英文をwpm=100程度のスピードで内容を正確に読み取れる。 <input type="checkbox"/> 各四半期に10000語以上の多読(多聴)を行う。	50	5	5	5
4. 伝えたい内容を英文で表現できる。	<input type="checkbox"/> 伝えたい内容を文法、語法の知識を使って英語で表現できない。	<input type="checkbox"/> 伝えたい内容を、概ね正しい文法、語法の知識を使って英語で表現できる。	<input type="checkbox"/> 伝えたい内容を、正しい文法、語法の知識を使い、適切な構成で文章を書くことができる。		5	5	
備考							

「文学特論」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				80%	20%	%
1. 日本語による表現についての確かな理解力・表現力を身につけ、自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を含む適切な語句を正しく用いて報告できる。(D1-3)	<input type="checkbox"/> 近現代の文学作品について、その文章表現に沿って、舞台設定および登場人物の心情や行動の変化を把握することができない。 <input type="checkbox"/> 種類と目的に応じた言語表現について理解できず、それぞれに必要な語彙・語法・表現法を自身の言語活動に活用することができない。	<input type="checkbox"/> 近現代の文学作品を読解し、その文章表現に沿って、舞台設定および登場人物の心情や行動の変化を把握することができる。 <input type="checkbox"/> 種類と目的に応じた言語表現について理解し、それぞれに必要な語彙・語法・表現法を身につけ、自身の言語活動に活用することができる。	<input type="checkbox"/> 近現代の文学作品を読解し、その文章表現に沿って、舞台設定および登場人物の心情や行動の変化を把握し、描写の裏に隠された比喩的・象徴的意味までも理解した上で鑑賞することができる。 <input type="checkbox"/> 種類と目的に応じた言語表現について理解し、それぞれに必要な語彙・語法・表現法を高い水準で身につけ、自身の言語活動に効果的に活用することができる。	80	20	
備考						

「哲学」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他(ディベートでのパフォーマンス)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				%	%	%
1. 「考える」ことの意味を反省的に検討し、説明することができる。	<input type="checkbox"/> 「考える」ことの意味を反省的に検討することができない。あるいは説明することができない。 <input type="checkbox"/> クリティカル・シンキングとはどのような思考方法か説明することができない。	<input type="checkbox"/> 「考える」ことの意味を反省的に検討し、説明することができる。 <input type="checkbox"/> クリティカル・シンキングとはどのような思考方法か説明することができる。	<input type="checkbox"/> 「考える」ことの意味を反省的に検討し、高い説得力をもって説明することができる。 <input type="checkbox"/> 具体的な事例に即してクリティカル・シンキングを実践することができる。	20	5	
2. 社会における「科学」と「技術」という営みの意味について検討し、説明することができる。	<input type="checkbox"/> 社会における哲学の意義について説明することができない。 <input type="checkbox"/> 近代科学の特徴について説明することができない。 <input type="checkbox"/> 社会における技術の役割について説明することができない。	<input type="checkbox"/> 社会における哲学の意義について検討し、説明することができる。 <input type="checkbox"/> 近代科学の特徴について説明することができる。 <input type="checkbox"/> 社会における技術の役割について説明することができる。	<input type="checkbox"/> 社会における哲学の意義について検討し、高い説得力をもって説明することができる。 <input type="checkbox"/> 近代科学の特徴について高い説得力をもって説明することができる。 <input type="checkbox"/> 社会における技術の役割について高い説得力をもって説明することができる。	20	5	
3. 今日生命倫理の主要な問題について、医療技術や生命科学技術の功罪を検討したうえで、自らの判断を説明し、他者と対話することができる。(A2-3)	<input type="checkbox"/> 今日生命倫理の主要な問題について、歴史的経過や現状などの基本的知識を説明することができない。 <input type="checkbox"/> 医療技術や生命科学技術の功罪について説明することができない。 <input type="checkbox"/> 他者の意見に耳を傾け、開かれた態度で対話することができない。	<input type="checkbox"/> 今日生命倫理の主要な問題について、歴史的経過や現状などの基本的知識を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 医療技術や生命科学技術の功罪について説明することができる。 <input type="checkbox"/> 他者の意見に耳を傾け、開かれた態度で対話することができる。	<input type="checkbox"/> 今日生命倫理の主要な問題について、基本的知識のみならず最新の学説まで説明することができる。 <input type="checkbox"/> 医療技術や生命科学技術の功罪について明確に説明することができる。 <input type="checkbox"/> 対話がより深いものになるよう議論を導くことができる。		40	10
備考						

「応用物理II」の成績評価基準表

A: 定期試験
 B: 実験レポート
 C: その他(演習課題レポート)

授業目標	到達基準			評価割合		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				75%	15%	10%
1. 実験を正確に行い、データを正しく解析し、結果を適切な有効数字で、かつ、グラフを用いて表現することができる。	<input type="checkbox"/> 実験指導書に従い、正しい手順で実験を行うことができない。 <input type="checkbox"/> 実験データを正しい有効数字で表現できない。 <input type="checkbox"/> 実験データを、実験指導書に従って正しく解析できない。 <input type="checkbox"/> 実験データを適切にグラフに表現することができない。	<input type="checkbox"/> 実験指導書に従い、正しい手順で実験を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 実験データを正しい有効数字で表現できる。 <input type="checkbox"/> 実験データを、実験指導書に従って正しく解析し、結論を導くことができる。 <input type="checkbox"/> 実験データを適切にグラフに表現することができる。	<input type="checkbox"/> 正しい手順で実験を行い、正確なデータを得ることができる。 <input type="checkbox"/> 複雑な解析を行った場合でも、正しい有効数字で結果を表現できる。 <input type="checkbox"/> 実験の解析結果についてその背景を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 実験データおよびそこから得た結論を適切にグラフを用いて表現することができる。		15%	
2. 実験結果およびその背景にある物理現象について正しく理解し、関連する諸量を計算できる。	<input type="checkbox"/> 実験を行った物理現象について正しく説明できない。	<input type="checkbox"/> 実験を行った物理現象について正しく説明でき、関連する諸量の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 実験を行った物理現象について正しく説明でき、応用的な事例について関連する諸量の計算ができる。	35%		
3. 電磁気学の基礎を理解し、代表的な電磁気現象に関して関連法則を用いて電磁気学的諸量を計算できる。(B1-3)	<input type="checkbox"/> 静電場に関する計算ができない。 <input type="checkbox"/> 定常電流に関する計算ができない。 <input type="checkbox"/> 定常電流と磁場に関する計算ができない。	<input type="checkbox"/> 静電場に関する計算ができる。 <input type="checkbox"/> 定常電流に関する計算ができる。 <input type="checkbox"/> 定常電流と磁場に関する計算ができる。	<input type="checkbox"/> 静電場に関する応用的な計算ができる。 <input type="checkbox"/> 定常電流に関する応用的な計算ができる。 <input type="checkbox"/> 定常電流と磁場に関する応用的な計算ができる。	40%		10%

「 コンピュータグラフィックス 」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				80%	20%	%
1. コンピュータグラフィックスのモデリング、視野、投影、ディスプレイ変換について具体的な座標変換計算ができる。	<input type="checkbox"/> モデリング、視野、投影、ディスプレイ変換の手順がわからず計算できない	<input type="checkbox"/> モデリング、視野、投影、ディスプレイ変換の手順がわかっており、計算できる	<input type="checkbox"/> モデリング、視野、投影、ディスプレイ変換を計算する手順がわかっており、正確に計算できる	40		
2. レンダリング法(照明モデル)および隠面処理、マッピング技術の種類と概要について概説できる。	<input type="checkbox"/> レンダリング法の種類と概要について説明できない <input type="checkbox"/> 隠面処理法の種類と概要について説明できない <input type="checkbox"/> マッピング法の種類と概要について説明できない <input type="checkbox"/> CGの高速化技術について説明できない	<input type="checkbox"/> レンダリング法の種類と概要について概ね説明できる <input type="checkbox"/> 隠面処理法の種類と概要について概ね説明できる <input type="checkbox"/> マッピング法の種類と概要について概ね説明できる <input type="checkbox"/> CGの高速化技術の手法について概ね説明できる	<input type="checkbox"/> レンダリング法の全種類と概要について正しく説明できる <input type="checkbox"/> 隠面処理法の全種類と概要について正しく説明できる <input type="checkbox"/> マッピング法の全種類と概要について正しく説明できる <input type="checkbox"/> CGの高速化技術の手法と概要について正しく説明できる	40		
3. 与えられた3次元CG作成課題を対象に、OpenGLを用いて要求仕様を満たすプログラムを作成すると同時に、その過程と考察を報告書に整理することができる(C2-3).	<input type="checkbox"/> 与えられた課題の要求仕様を満たすプログラムを作成できない	<input type="checkbox"/> 与えられた課題の要求仕様を満たすプログラムを作成でき、報告書にまとめることができる	<input type="checkbox"/> 与えられた課題の要求仕様に加えて独自の機能を追加したプログラムを作成でき、報告書にまとめることができる		20	
備考						

「応用数学A」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他(工学系数学統一試験)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				80%	15%	5%
1. ラプラス変換、フーリエ変換(級数)が求められ、複素関数の微積分が計算できる。(B1-3)	<input type="checkbox"/> ラプラス変換を求めることができない。 <input type="checkbox"/> フーリエ級数を求めることができない。 <input type="checkbox"/> フーリエ変換を求めることができない。 <input type="checkbox"/> 複素関数の導関数を求めることができない。 <input type="checkbox"/> 複素積分を計算することができない。	<input type="checkbox"/> ラプラス変換を求めることができる。 <input type="checkbox"/> フーリエ級数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> フーリエ変換を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素関数の導関数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素積分を計算することができる。	<input type="checkbox"/> 逆ラプラス変換を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ラプラス変換を用いて微分方程式が解ける。 <input type="checkbox"/> ラプラス変換を用いて積分方程式が解ける。 <input type="checkbox"/> 逆フーリエ変換を求めることができる。 <input type="checkbox"/> フーリエ級数、フーリエ変換を用いて偏微分方程式が解ける。 <input type="checkbox"/> テーラー展開およびローラン展開を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素積分を用いて実積分を求めることができる。			
備考	工学系数学統一試験の得点を評価に加味します。					

「 応用数学B 」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他(工学系統一試験)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				%	%	%
1 確率論の基礎概念を理解し、統計学の基礎理論に応用できること。	<p>□ 確率の定義を理解できず、簡単な事象の確率を求めることができない。</p> <p>□ 平均、分散、標準偏差の定義とその意味を理解できず、データからそれらを求めることができない。</p> <p>□ 確率変数と確率分布の概念を理解できず、確率分布の定義から平均、分散等の統計量を求めることができない。</p> <p>□ 母平均、母分散、母比率の区間推定について、信頼度の意味が分からず、信頼区間を作成できない。</p>	<p>□ 確率の定義を理解し、簡単な事象の確率を求めることができる。</p> <p>□ 平均、分散、標準偏差の定義とその意味を理解でき、データからそれらを求めることができる。</p> <p>□ 確率変数と確率分布の概念を理解し、確率分布の定義から平均、分散等の統計量を求めることができる。</p> <p>□ 母平均、母分散、母比率の区間推定について、信頼度の意味が分かり、信頼区間を作成できる。</p>	<p>□ 条件付確率、ベイズの定理を理解し、これを実際の問題に応用できる。</p> <p>□ 相関関係を理解し、相関係数を求めることができる。</p> <p>□ 中心極限定理を理解し、標本から条件を満たす確率を求めることができる。</p> <p>□ 母集団の特性を理解し、正確に母数を推定することができる。</p>	60	30	10
備考						

「応用物理」の成績評価基準表

A: 定期試験
 B: 実験レポート
 C: その他(演習課題レポート)

授業目標	到達基準			評価割合		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				75%	15%	10%
1. 実験を正確に行い、データを正しく解析し、結果を適切な有効数字で、かつ、グラフを用いて表現することができる。	<input type="checkbox"/> 実験指導書に従い、正しい手順で実験を行うことができない。 <input type="checkbox"/> 実験データを正しい有効数字で表現できない。 <input type="checkbox"/> 実験データを、実験指導書に従って正しく解析できない。 <input type="checkbox"/> 実験データを適切にグラフに表現することができない。	<input type="checkbox"/> 実験指導書に従い、正しい手順で実験を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 実験データを正しい有効数字で表現できる。 <input type="checkbox"/> 実験データを、実験指導書に従って正しく解析し、結論を導くことができる。 <input type="checkbox"/> 実験データを適切にグラフに表現することができる。	<input type="checkbox"/> 正しい手順で実験を行い、正確なデータを得ることができる。 <input type="checkbox"/> 複雑な解析を行った場合でも、正しい有効数字で結果を表現できる。 <input type="checkbox"/> 実験の解析結果についてその背景を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 実験データおよびそこから得た結論を適切にグラフを用いて表現することができる。		15%	
2. 実験結果およびその背景にある物理現象について正しく理解し、関連する諸量を計算できる。	<input type="checkbox"/> 実験を行った物理現象について正しく説明できない。	<input type="checkbox"/> 実験を行った物理現象について正しく説明でき、関連する諸量の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 実験を行った物理現象について正しく説明でき、応用的な事例について関連する諸量の計算ができる。	35%		
3. 熱力学の基礎を理解し、代表的な熱現象に関して熱力学第1・第2法則および関連法則を用いて熱力学的諸量を見積ることができる。(B1-3)	<input type="checkbox"/> 熱容量に関する計算ができない。 <input type="checkbox"/> 熱力学第1法則を用いた計算ができない。 <input type="checkbox"/> 熱力学第2法則を説明できない。	<input type="checkbox"/> 熱容量に関する具体的な計算ができる。 <input type="checkbox"/> 熱力学第1法則を用いた計算ができる。 <input type="checkbox"/> 熱力学第2法則を説明でき、エントロピー変化の計算ができる。	<input type="checkbox"/> 相変化を伴う複雑な過程に関して熱の出入りの計算ができる。 <input type="checkbox"/> 理想気体のさまざまな状態変化に対して熱力学第1法則を用いた計算ができる。 <input type="checkbox"/> 具体的な熱過程に対してエントロピー変化を計算できる。	40%		10%

「技術英語I」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A 80%	B 20%	C %
1. 論文の構成、パラグラフ、センテンスが正確、明確、簡潔に記述できる。	□与えられた日本語文書資料の内容について小論文を課したときに、適格なタイトルをつける、自身の結論に向けて論理展開をすることができない。(試験の点が24点未満に相当)。	□与えられた日本語文書資料の内容について小論文を課したときに、適格なタイトルをつける、自身の結論に向けて論理展開をすることができ、論理的飛躍がない(試験の点が24～32点未満に相当)。	□与えられた日本語文書資料の内容について小論文を課したときに、適格なタイトルをつける、自身の結論に向けて論理展開をすることができ、論理的飛躍がなく、さらに論理に基づいて適切な段落分けを設定できる(試験の点が32点以上に相当)。	40		
2. 英文abstractにおける論理構成、プレゼンテーションの手順の習得。(D2-4)	□英文abstractでの論理構成に基づいて典型的な英文での表現ができない(試験の点が24点未満に相当)。 □プレゼンテーション用の英文abstractで文法的な誤りが頻繁にある文書しか作成できない(レポートで12点未満に相当)。	□英文abstractでの論理構成に基づいて典型的な英文での表現ができる(試験の点が24～32点に相当)。 □プレゼンテーション用の英文abstractで文法的な誤りが少なく正確な文書が作成できる(レポートで12～16点未満に相当)。	□英文abstractでの論理構成に基づいて典型的な英文での表現が、明確、簡潔にできる(試験の点が32点以上に相当)。 □プレゼンテーション用の英文abstractで文法的な誤りがなく正確、明確、簡潔な文書が作成できる(レポートで16点以上に相当)。	40	20	
備考						

「計測工学」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				60%	40%	0%
1. 計測の基礎理論に基づいて、測定データの処理が正しく出来る。	□計測誤差について、間接測定による誤差・最小二乗法を用いた直線の式・標準偏差によるばらつきなどを、理論に基づいた式を用いて算出することができない(定期試験36点未満に相当)。	□計測誤差について、間接測定による誤差・最小二乗法を用いた直線の式・標準偏差によるばらつきなどを、理論に基づいた式を用いて算出することができる(定期試験36点～47点に相当)。	□計測誤差について、間接測定による誤差・最小二乗法を用いた直線の式・標準偏差によるばらつきなどを、理論に基づいた式を導出するとともに、これらの式を用いて算出することができる(定期試験48点以上に相当)。	60		
2. 各物理量の測定法を説明し、実際の測定に応用できる。(C1-3)	□機械的な測定(長さや角度など)や電気的なセンサを用いた測定方法の原理を説明できない(課題レポート24点未満に相当)。	□機械的な測定(長さや角度など)や電気的なセンサを用いた測定方法の原理を説明できる(課題レポート24点～31点に相当)。	□機械的な測定(長さや角度など)や電気的なセンサを用いた測定方法の原理および、どのようなところでこれらの測定が応用されているのかを説明できる(課題レポート32点以上に相当)。		40	
備考						

「工学演習II」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他(企画・製品・プレゼン)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				40%	60%	0%
1. 線形空間、Hilbert空間の基礎概念	<input type="checkbox"/> 基礎概念が説明できない。(試験評価点6点未満)	<input type="checkbox"/> 基礎概念が理解でき、人に説明できる。(試験評価点6点から8点に相当)	<input type="checkbox"/> 基礎概念の連関が理解でき、人に説明できる。(試験評価点8点から10点に相当)	10		
2. 線型方程式の解法	<input type="checkbox"/> 線形方程式を観るための空間構造が一部分しか理解できていない。(試験評価点6点未満)	<input type="checkbox"/> 線形方程式を観るための空間構造が理解できており、人に説明できる。(試験評価点6点から8点に相当)	<input type="checkbox"/> 現実世界の問題を線形方程式で捉え、解決が図れる。(試験評価点8点から10点に相当)	10		
3. 行列関数の計算	<input type="checkbox"/> 正方行列のスペクトル分解が一部分しか理解できない。 <input type="checkbox"/> 正方行列の行列関数の計算法が一部分しか理解できない。(試験評価点6点未満)	<input type="checkbox"/> 対角化可能な行列の行列関数が計算できる。(試験評価点6点から8点に相当)	<input type="checkbox"/> 現実世界において行列関数が使われる場面が説明できる。(試験評価点8点から10点に相当)	10		
4. 無限次元空間の微分	<input type="checkbox"/> 変分問題とその解法が一部分しか理解できない。(試験評価点6点未満)	<input type="checkbox"/> 変分問題をHilbert空間上で捉え、微分計算ができる。(試験評価点6点から8点に相当)	<input type="checkbox"/> 現実世界のどのような場面でこの微分計算が使われるのかを説明できる。(試験評価点8点から10点に相当)	10		
5. 形式化能力(適用能力,B1-3)	<input type="checkbox"/> 計算アルゴリズム(Newton法)の本質の理解が一部分しかできない。(課題レポート評価点40点未満に相当)	<input type="checkbox"/> 計算アルゴリズム(Newton法)の本質の理解ができ、工学的問題解決に適用できる。(課題レポート評価点40点から55点に相当)	<input type="checkbox"/> 計算アルゴリズム(勾配法)も同様に形式化でき、工学的問題の解決に適用できる。(課題レポート評価点56点から60点に相当)		60	
備考						

「工学実験I」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 実験レポート	氏名	
C: その他(作業状況報告書)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A 0%	B 90%	C 10%
1. 作業内容と役割を把握して行動し、担当業務の進捗状況を他者に報告できる。(E1-3)	□チームとして行う作業内容とその中での自分の役割をうまく説明できず、担当業務の進捗状況を他者に報告できない(作業状況報告書の評価が6点未満)。	□チームとして行う作業内容とその中での自分の役割を明確に説明でき、担当業務の進捗状況を他者に報告できる(作業状況報告書の評価が6点~8点)。	□チームとして行う作業内容とその中での自分の役割を明確かつ詳細に説明でき、担当業務の進捗状況を他者に報告できる(作業状況報告書の評価が9点以上)。			10
2. 実験方法、実験結果、考察等を第三者に情報(報告書)として簡潔に判りやすく伝えることができる。	□実験方法、実験結果、考察等を報告書として簡潔にまとめることができず、記載内容が不十分である(実験レポートの評価が54点未満)。	□実験方法、実験結果、考察等を報告書として簡潔に判りやすくまとめることができる(実験レポートの評価が54点~75点)。	□実験方法、実験結果、考察等を報告書として簡潔に判りやすくまとめることができ、十分な考察を行うことができる(実験レポートの評価が76点以上)。		90	
備考	各目標に対する評価点は、5実験室の評価点の算術平均によって計算される。作業状況は作業状況報告書に基づいて評価される。実験レポートの評価では内容、体裁、結果と考察、提出期限の順守が重要視され、提出期限に遅れた場合は減点となる。					

「自動制御」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				80%	20%	%
1. 動的システムをモデル化できる	<input type="checkbox"/> ラプラス変換・逆変換ができない <input type="checkbox"/> 伝達関数を導出できない <input type="checkbox"/> ブロック線図を作成できない <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ラプラス変換・逆変換ができる <input type="checkbox"/> 伝達関数を導出できる <input type="checkbox"/> ブロック線図を作成できる <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ラプラス変換・逆変換できる <input type="checkbox"/> 伝達関数を導出できる <input type="checkbox"/> ブロック線図を作成できる <input type="checkbox"/> 動的システムのブロック線図を作成できる	20	5	
2. 入出力の時間応答を求めることができる	<input type="checkbox"/> 積分・微分応答が描けない <input type="checkbox"/> 1次遅れステップ応答が描けない <input type="checkbox"/> 2次遅れステップ応答が描けない <input type="checkbox"/> 定常偏差を計算できない	<input type="checkbox"/> 積分・微分応答が描ける <input type="checkbox"/> 1次遅れステップ応答が描ける <input type="checkbox"/> 2次遅れステップ応答が描ける <input type="checkbox"/> 定常偏差を計算できる	<input type="checkbox"/> 積分・微分応答が描ける <input type="checkbox"/> 1次遅れステップ応答が描ける <input type="checkbox"/> 2次遅れステップ応答が描ける <input type="checkbox"/> 定常偏差を計算できる <input type="checkbox"/> PID制御の応答を求めることができる	20	5	
3. 入出力の周波数応答を求めることができる。	<input type="checkbox"/> 積分器・微分器のボード線図が描けない <input type="checkbox"/> 1次・2次遅れのボード線図が描けない <input type="checkbox"/> n次遅れのボード線図が描けない	<input type="checkbox"/> 積分器・微分器のボード線図が描ける <input type="checkbox"/> 1次・2次遅れのボード線図が描ける <input type="checkbox"/> n次遅れのボード線図が描ける	<input type="checkbox"/> 積分器・微分器のボード線図が描ける <input type="checkbox"/> 1次・2次遅れのボード線図が描ける <input type="checkbox"/> n次遅れのボード線図が描ける <input type="checkbox"/> ベクトル軌跡が描ける	20	5	
4. フィードバック制御の安定性を判別できる	<input type="checkbox"/> 閉ループ・開ループ伝達関数が求められない <input type="checkbox"/> ボード線図からゲイン余裕・位相余裕が求められ安定性を判別できる <input type="checkbox"/> 安定な極を判別できない	<input type="checkbox"/> 閉ループ・開ループ伝達関数が求められる <input type="checkbox"/> ボード線図からゲイン余裕・位相余裕が求められ安定性を判別できる <input type="checkbox"/> 安定な極を判別できる	<input type="checkbox"/> 閉ループ・開ループ伝達関数が求められる <input type="checkbox"/> ボード線図からゲイン余裕・位相余裕が求められ安定性を判別できる <input type="checkbox"/> 安定な極を判別できる <input type="checkbox"/> 補償器を用いて安定性を改善	20	5	
5. ... ()	<input type="checkbox"/> ...	<input type="checkbox"/> ...	<input type="checkbox"/> ...			
備考						

「 数値解析 」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				%	%	%
1. 数学モデルで表現された問題に対し、代表的な数値解法のアルゴリズムや特徴を説明できること。	<input type="checkbox"/> 数学モデルで表現された問題に対し、代表的な数値解法のアルゴリズムや特徴を説明できない。(定期試験評価30点未満に相当。)	<input type="checkbox"/> 数学モデルで表現された問題に対し、代表的な数値解法のアルゴリズムや特徴を説明できる。(定期試験評価30点～39点に相当。)	<input type="checkbox"/> 数学モデルで表現された問題に対し、代表的な数値解法のアルゴリズムや特徴を説明でき、複数の解法を比較できる。(定期試験評価40以上に相当。)	50		
2. 数学モデルで表現された問題を数値的に解くことができ、その結果をまとめ評価できること。	<input type="checkbox"/> 数学モデルで表現された問題を数値的に解くことができず、その結果をまとめ評価できない。(課題レポート評価30点未満に相当。)	<input type="checkbox"/> 数学モデルで表現された問題を数値的に解くことができ、その結果をまとめ解の妥当性を評価できる。(課題レポート評価30点～39点に相当。)	<input type="checkbox"/> 数学モデルで表現された問題を数値的に解くことができ、その結果をまとめ解の妥当性を評価し、数値解法と解の関係を説明できる。(課題レポート評価40以上に相当。)		50	
備考	課題レポートの評価は、提出期限に遅れた場合は減点となる。課題レポートの評価点は、すべての課題レポート点の算術平均で計算される(50点満点に換算する)。					

「創造設計」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他(企画・製品・プレゼン)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				0%	20%	80%
1. [製品企画] 社会のニーズを知り、それに適した製品の企画ができる(C3-3)	<input type="checkbox"/> 社会的ニーズや課題を工学的に捉えることができない <input type="checkbox"/> 会議への積極的な参加や、意見の主張ができない	<input type="checkbox"/> 各種メディアを利用して、社会のニーズや既存技術に関する情報を収集することができる <input type="checkbox"/> 企画会議において、他者のアイデアを分析して意見を述べるができる	<input type="checkbox"/> 綿密な社会的ニーズ調査とチームメンバーの能力評価をもとに、世の中にない商品の提案ができる <input type="checkbox"/> 企画会議を主導し、他者のアイデアを分析して発展させることができる			20
2. [製品製作] プロジェクトとして組織的に計画を実行し、与えられた制約のもとで製品を製作することができる	<input type="checkbox"/> 他者との協働が不得手であり、円滑なプロジェクト運営の妨げとなってしまう <input type="checkbox"/> 設計・加工技術が稚拙であり、製品の製作に寄与できない	<input type="checkbox"/> リーダー指示の下で、プロジェクトの組織的運営に貢献できる <input type="checkbox"/> 製品制作に関する知識や技術の面で不足はあるが、チームの仲間と互いに補いあうことで製品完成に貢献することができる	<input type="checkbox"/> リーダーとしてチーム全体のまとめ役を務め、円滑なプロジェクト進行に貢献できる <input type="checkbox"/> 高いモノづくり能力を遺憾なく発揮し、製品の完成において中心的な役割を担うことができる			50
3. [プレゼンテーション] 成果を説明するために適切な資料を作成しプレゼンテーションができる	<input type="checkbox"/> 発表会における貢献はできず、その準備過程においても積極的な協力ができない	<input type="checkbox"/> 主発言者に適切な助言を行うなど、発表会の活性化に貢献できる <input type="checkbox"/> 発表資料(スライド・台本)の制作に協力することで、成果の魅力アピールするための貢献ができる	<input type="checkbox"/> 主発表者として、チームで企画・製作した製品やアイデアを魅力的にアピールすることができる <input type="checkbox"/> 発表資料(スライド・台本)の制作において指導的立場をとり、発表の準備で中心的な役割を担うことができる			10
4. [ドキュメント制作] わかりやすく適切な形式でドキュメントをまとめることができる	<input type="checkbox"/> 必要なドキュメントを他者からの指示・助言を受けても作成・提出できない	<input type="checkbox"/> 他者からの指示・助言を受けつつも、期限内に必要なドキュメントを作成・提出できる	<input type="checkbox"/> 適切な形式で分かりやすいドキュメントを主体的に作成し、チームメンバーに対する作成指導や提出のとりまとめを行うことができる。		10	
5. [特許分析] 特許検索により特許マップを制作できる(C3-3)	<input type="checkbox"/> 特許出願の流れを理解できず、製品に関連する特許情報検索ができなかった	<input type="checkbox"/> 特許取得までの流れを理解し、特許情報の検索方法を説明・実行することができる <input type="checkbox"/> 周辺特許技術を検索することで、特許マップを作成することができる	<input type="checkbox"/> 特許取得までの流れを理解し、様々な検索方法を駆使することで多角的な特許情報検索が行える <input type="checkbox"/> 特許マップの作成と分析・評価により、プロジェクトの新規性や発展性を見出し、特許申請できる資料を準備できる		10	
備考						

「工学実験II」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				%	100%	%
1. 制御、情報、機械工学に関する実験手法、実験データの解析手法を取得する。(E1-4)	□認知工学、CAD/CAM、光情報工学、組み込みシステムに関する実験手法、データ解析手法を正確に記述することができない(レポート24点未満に相当)。	□認知工学、CAD/CAM、光情報工学、組み込みシステムに関する実験手法、データ解析手法を正確に記述することができる(レポート24～32点に相当)。	□認知工学、CAD/CAM、光情報工学、組み込みシステムに関する実験手法、データ解析手法を正確に記述ことができ、さらに独自の解析手法を提案し実験結果の考察を付加することができる(レポート32点以上に相当)。		40	
2. 第三者が実験できる程度のレベルで報告書をまとめることができる。(E1-4)	□実験概要の記述、実験手法の記述、実験結果の記述が不明瞭で実験内容や結果を再現することができない(レポート36点未満に相当)。	□実験概要の記述、実験手法の記述、実験結果の記述が明瞭で実験内容や結果を再現することができる(レポート36～48点に相当)。	□実験概要の記述、実験手法の記述、実験結果の記述が明瞭で実験内容や結果を再現することができ、さらに考察内容を深めるための実験を実施または提案できる(レポート48点以上に相当)。		60	
備考	レポートは誤字脱字がないこと、事実と自分の意見を分けて記述できていること、実験手法が第三者がにて再現できる程度に書かれていること、グラフの記述がレポート指導書に準拠していることなどを評価する。断りなくレポートの提出期日が遅れた場合、再提出レポートが提出されていない場合、他のレポートを写したこと(カンニング相当)の場合には、当該実験のレポート点を減点または0点とする。各実験レポートの点の平均点を評価点とする。					

「工業英語Ⅱ」の成績評価基準表

A:定期試験	学籍番号	
B:課題レポート	氏名	
C:その他()		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				80%	20%	0%
1. 日本語で書かれた工業に関する文章を英語に翻訳できる。(D2-3)	□与えられた、もの作りに関する日本語の文章について、適切な英語翻訳が出来る割合が6割に満たない。	□与えられた、もの作りに関する日本語の文章について、その6割以上を適切な英語に翻訳できる。	□与えられた、もの作りに関する日本語の文章について、その8割以上を適切な英語に翻訳できる。	40		
2. 英語で書かれた工業に関する文章を日本語に翻訳できる	□与えられた、もの作りに関する英語の文章について、適切な日本語翻訳が出来る割合が6割に満たない。	□与えられた、もの作りに関する英語の文章について、その6割以上を適切な日本語に翻訳できる。	□与えられた、もの作りに関する英語の文章について、その8割以上を適切な日本語に翻訳できる。	32		
3. 英単語について、その派生語を記述できる。	□もの作りの表現に頻出する英単語について、その派生語(反対語、同義語、品詞変換など)が出来る割合が6割に満たない。	□もの作りの表現で頻出する英単語について、その派生語(反対語、同義語、品詞変換など)が6割以上できる。	□もの作りの表現で頻出する英単語について、その派生語(反対語、同義語、品詞変換など)が6割を超えてできる。	8		
4. もの作りについて、その業務内容やプロセスについて説明できる。	□もの作りに関するレポートが納期までに提出できない。 □もの作りに関する指定した内容について、レポートを見ながらでも説明することが出来ない。	□もの作りに関するレポートを納期までに提出できる。 □もの作りに関する指定した内容について、レポートを見ながら説明することが出来る。	□もの作りに関するレポートを納期までに提出できる。 □レポートや参考資料を見なくても、自分の言葉でもの作りに関して指定された内容を説明することが出来る。		20	
備考						

「経営工学」の成績評価基準表

A: 定期試験	学籍番号	
B: 課題レポート	氏名	
C: その他(プレゼンテーション)		

授業目標	到達基準			評価割合(100%)		
	未到達基準	標準基準	優秀基準	A	B	C
				0%	80%	20%
(1) 企業経営におけるMOT的視点の重要性について説明出来る。	<input type="checkbox"/> 企業経営においてMOT的視点の重要性について概略の説明ができない。	<input type="checkbox"/> 企業経営においてMOT的視点の重要性について概略の説明ができる。	<input type="checkbox"/> 企業経営においてMOT的視点の重要性について、実例を交えて説明ができる。		20	
(2) 経営資源としての技術を市場に投入し、利益を得るためのマネジメントについて説明が出来る。	<input type="checkbox"/> 経営資源としての技術の活用とそのマネジメントについて説明ができない。	<input type="checkbox"/> 経営資源としての技術の活用とそのマネジメントについて概略説明ができる。	<input type="checkbox"/> 経営資源としての技術の活用とそのマネジメントについて、実例を交えて説明ができる。		60	
(3) 企業の社会的責任(CSR)の一環として重要な「環境への配慮」に対し、地域や地球に悪影響を与えないための有効な手法について2つ以上説明出来る。(A1-4)	<input type="checkbox"/> 企業が行う地球や地域の環境に悪影響を与えないための有効な2つ以上の手法についての説明が出来ない。	<input type="checkbox"/> 企業が行う地球や地域の環境に悪影響を与えないための有効な2つ以上の手法について説明が出来る。	<input type="checkbox"/> 企業が行う地球や地域に環境へ悪影響を与えないための有効な2つ以上の手法について、実例を交えて説明が出来る。		20	
備考						

「卒業研究」の成績評価基準表

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

評価対象	指導教員 (%)	S科全教員 (%)	(自己)評価点
A: 卒業研究中間発表会 (抄録を含む)	0	100	
B: 卒業研究最終発表会 (抄録を含む)	0	100	
C: 卒業研究報告書 (英文アブストラクトを含む)	100	0	
D: 研究ノート (活動状況を含む)、提出物等 (抄録や卒論を含む)	100	0	

授業目標	到達基準				A	B	C	D	合計 (%)
	未到達基準	最低基準	標準基準	優秀基準					
	6割未満の得点	6割以上7割未満	7割以上9割未満	9割以上の得点					
1. 研究に関する社会的背景と研究目的を理解した上で、安全性について配慮した年間計画を立て、遂行することができる。	研究計画を立てることができない。	研究の背景と目的を理解した上で、研究計画を立てることができる。	研究の背景と目的を理解した上で、安全性に配慮した研究計画を立て、その計画に基づいて研究活動を遂行できる。	研究の背景と目的を十分に理解した上で、安全性に配慮した効率的な研究計画を立て、その計画に沿って研究活動を遂行できる。				10	10
2. 研究に関する情報を自ら集め、実験等で得られた情報を解析し、問題の特定と仮説に基づいて更なる展開につなげることができる。(E2-3)	研究遂行に必要な文献を調査できず、研究で得られた情報を解析できない。	研究遂行に必要な文献を調査でき、研究で得られた情報を解析できる。	研究遂行に必要な文献を調査でき、研究で得られた情報を解析し、問題の特定と仮説に基づいて更なる展開につなげることができる。	研究遂行に必要な文献を複数調査でき、研究で得られた情報を詳細に解析し、的確な問題の特定と仮説に基づいて更なる展開につなげることができる。				20	20
3. 研究の成果を整理し、系統立ててスライドを作成することで、第3者にわかりやすく説明し、質問に適切に回答することができる。(D1-3)	研究成果を整理できず、発表会において第3者が理解できるような説明を行えない。	発表会において第3者が理解できるような研究成果の説明ができ、質問に回答することができる。	抄録が期限内に提出され、発表会において第3者にわかりやすく研究成果を説明でき、質問にも的確に回答できる。	十分な内容の抄録が期限内に提出され、発表会において第3者に非常にわかりやすく研究成果を説明でき、質問への回答も非常に的確である。	10	30			40
4. 研究の背景から目的、その解決と評価手法について系統立てて論理を展開し、結論に至るまで文章や図表で記述することができる。(C2-3)	研究の結論に至るまでの過程で情報やデータを収集・整理できず、研究成果を報告書にまとめることができない。	研究の結論に至るまでの過程で情報やデータを収集・整理でき、文章や図表を用いて報告書を作成できる。	研究の結論に至るまでの過程で情報やデータを効率的に収集・整理でき、的確な文章や図表を用いて報告書を作成できる。	研究の結論に至るまでの過程で情報やデータを効率的かつ十分に収集・整理でき、非常に的確な文章や図表を用いて報告書を作成できる。			30		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> 各項目に対する詳細な評価基準については別紙参照のこと。 S科全教員の評価は、指導教員も含むS科教員全員の評価を算術平均して計算される。 学生は自己採点した成績評価基準表をポートフォリオに閉じてください。 								